

1. 農試育成モモ品種‘新白麗’の特性（技術）			
[要約] 晩生品種‘白麗’からの新しい枝変わり系統は、成熟期が‘白麗’より2～3週間遅く落下が少ない8月下旬に成熟する白いモモである。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0276

[背景・ねらい]

満開後141日以降に成熟する極晩生品種として有望な‘新白麗’の果実品質及び生育特性についてまとめ、導入、栽培上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. ‘新白麗’の来歴

農業試験場が平成3年当時、選抜試験中であった‘白麗’を現地試験として配布したところ、その中の1樹から成熟期が‘白麗’より遅い個体を発見した。当該個体は平成11年から農業試験場内で特性調査を実施した。

2. 品種特性

(1) 樹の特性（図1、表1）

1) 樹姿は中間型で、樹冠は大きく、樹勢が強い特性は‘白麗’に似る。成熟期が近い‘あきぞら’に比べては樹姿、樹冠、樹勢ともに特性が異なる。豊産性であり、生理的落果は‘白麗’や‘あきぞら’ほど発生せず、現地の13年生母樹においても少ない。

(2) 花の特性（表2）

1) 開花は‘白麗’より1～2日、‘あきぞら’に比べて3～4日程度早い。
2) ‘白麗’と同様に花粉があるため、人工受粉する必要はない。

(3) 果実の外観（図2、表2）

1) 成熟期は8月下旬（盛期8月24日、岡山県赤磐市神田沖）で、‘白麗’より約2～3週間、‘あきぞら’より8～11日遅い満開後141～150日に成熟する極晩生品種である。
2) 果実の大きさは300g程度と‘あきぞら’より大きい、‘白麗’よりやや小さい。
3) 果実はだ円形（縦径／横径比＝1.05）で、‘白麗’と同じであるが、扁円形である‘あきぞら’に比べてやや腰高である。
4) 果皮の地色は乳白色、着色範囲は少程度で着色程度は淡い。外観は‘白麗’似だが、果皮着色がやや多い点と果頂部縫合線の凹みが深い点が異なっている。
5) 裂皮はない。
6) 核割れは‘白麗’と同じくほとんどない。

(4) 果実の品質（表2）

1) 果肉の色は白色で、果肉内着色は無～微程度である。
2) 糖度は平均14.2度あり、‘白麗’や‘あきぞら’に劣るが、平均14度以上あるため、高糖度品種である。
3) 果肉の硬さは軟らかく、ち密で、果汁は多く、酸味は少なく、渋味はない。食味は‘白麗’よりやや劣るが、‘あきぞら’と同程度で、極晩生品種としては優れる。
4) 核は粘核である。
5) 日持ちは良い。

[成果の活用面・留意点]

- 岡山県推奨品種の‘白麗’より更に2～3週間程度遅く成熟する有望品種である。
- 夏季の乾燥により果実に極軽いエグミが発生することがある。乾燥時にはかん水を行う必要がある。

[具体的データ]



図1 '新白麗' の樹姿



図2 '新白麗' 果実の外観と切断面

表1 '新白麗' の樹の特性

品 種 名	樹 姿	樹冠	樹 勢	生理的落果	収 量
新白麗	中 間	大	強	無～少	多
白麗<対照>	中 間	大	強	多	中～多
あきぞら<対照>	やや直立	中	やや強	少～中	中～多

表2 '新白麗' の果実の特性

品 種 名	開 花 期			花粉	成 熟 期			果実重 (g)	果皮 色	果皮 着色	果肉 着色	裂皮
	始	盛	終		始	盛	終					
新白麗	4/3	4/5	4/10	有	8/23	8/24	8/28	306	乳白	少(淡)	無～微	無
白麗(対照)	4/4	4/7	4/11	有	8/ 3	8/ 6	8/12	322	乳白	無～微	無	無
あきぞら(対照)	4/6	4/8	4/14	無	8/12	8/16	8/20	244	乳白	微	少	無
品 種 名	肉質	果汁	糖度	pH	核 日持ち	渋み	核割れ	食味 ^z	備 考			
新白麗	軟密	多	14.2	4.7	粘 良	無	0.0	7.0	外観は白麗に類似			
白麗<対照>	軟密	多	14.9	4.6	粘 良	無	1.7	7.9	食味良好			
あきぞら<対照>	軟密	多	17.5	3.9	粘 良	無	26.7	7.0	高糖度、エグミあり			

注) 2004年には、新白麗は6年生、白麗は10年生、あきぞらは13年生

z 1 (下下)～5 (中)～9 (上上) の9段階評価とした。

[その他]

試験研究課題・事業名：果樹導入品種の選定

予算区分：県単

研究期間：昭和42～平成15年度

関連情報等：平成16年12月8日、種苗法第17,728号にて品種登録申請を受理